日露戦争とロンドン金融市場

板谷 敏彦

一、『日露戦争、資金調達の戦い』
（新潮選書）執筆の動機

（はじめに）
ただいま御紹介いたしました板谷と申し
ます。よろしくお願いいたします。
本日は、『日露戦争とロンドン金融市場』とい
うテーマでお話しさせていただきました。
先ほど御紹介いたいた略歴にもありますが、
で言うと株屋であって、ずっと株ばかりやって
いても、デリバティブズがあればストラクチャー
ド・ファイナンスもあって、ノートの発行とか、
いろんなことをしてきたので、ある程度は債券の
発行市場のことも理解しております。リサーチに
いてレポートを書いたことは一度もございません
でしたけれども、縁があってこういう本を書くこ
とになりました。
執筆の動機
書いた本が『日露戦争 資金調達の戦い』でございまして、新潮選書から今発売されている。読まれた方もいらっしゃれば、読まれていない方も読いただきたいと思います。日露戦争というものはすごく人気のあるイシューレツです。出版社でも日露戦争関連の本は数多く出版されています。検証日露戦争のか『日露戦争の真実』とかいろいろあるのです。私が見る限りですが、ありませんでした。なぜかというまかります。ファイナンスに関して納得できる本は、私が見る限りです。ファイナンスは高橋清自伝という本を出版けれども、彼は『高橋清自伝』という本を出版しました。この中にその経緯が書いてあります。日本が日露戦争に及んで資金調達をしなければいけないというときに、高橋がロンドンに行って、誰もお金貸してくれない。そのとき、たまたま宴会で隣に座ったユダヤ人がお金を貸してくれた。ありがたかった。こういう話もとになってしまいまして、みんなこの自伝に沿って資金調達のストーリーをつくってしまいます。司馬遼太郎の『坂の上の雲』というのは、例え司馬遼太郎の坂の上の雲というのは、例え丸の内のビジネスマンの体裁の方が読んでい Explosionをつくってしまいます。司馬遼太郎の坂の上の雲というの...
日露戦争とロンドン金融市場

三日、一回は新聞記者からインタビューを受けているような人です。要は大金持ちで、別荘がいっぱい、セレブです。ですから、NHKで表れた俳優さんとは全く似て似つかれない正反対の人だったのです。そういう（ユダヤ人に対する）誤解がどうしても日本の中であって、ちょっと考えると大げさに言いますと、金融というのは（モラル的）に一段低く、銀行に比えて証券となるというような、一段低く見られていたというのは、皆さんも実感があるのではいかがかと思うのです。金融リテラシーとよく言いますけれども、そういうものが（日本では）結構不足しているのではないかという部分は、私もこの話を調べながら痛感しましたので、もっと（機能としての金融）ちゃんとしたところを書こうと思ったのが、この本を書き出した動機です。

（高橋是清のファイナンスの概要）

さて、この本の概要といいましょうか、高橋は清に発する（日露戦争の戦費）ファイナンスの概要を説明しますと、当時、日清戦争の戦費が約一億五〇〇〇万円、そのうち五〇〇〇万円が外貨で出ていった。要するに外国から物を輸入しなければ、日清戦争は戦えなかったということです。日露戦争が始まる直前に予測するのですから、大本の日清戦争の三倍の予算があられればいいだろう。したがって、四億五〇〇〇万円、ということは、外貨で出た金を忘れてはいけないのです。高橋は清は日本の国内に幾ら金貨が残るかというの
証券レビュー 第54巻第3号

ロンドンに預けているボンドの量なので、これを調べました。正確に言うと金貨でなくて、ロンドンに預けているボンドの量なので、これは五〇〇〇万円残るだろうと。通説では、一億円が必要ないから、一億円を借りてよいという命令を受けたということになっています。

これはちょっと考えればすぐわかるのです。融資手口は市場融資、すなわち、市場の金を借りて、资金を調達しようということです。なぜかというと、日本は金本位制度を維持するということで戦争を始めましたので、ファイナンスしても足りない。高橋は清は、まずニューヨークに行って、お願いしたけれどもけんもほろだったという話を書くのです。これが自伝の中でこう言ったから、みんなそういうふうに書いているのです。最初から誤解したまま、一億円だけファイナンスすればいいという話、自分たちいらない話が進んでいるのです。だから、ちゃんと調べると、実は最初から二億円が必要だった。

当時ニューヨークには外債市場がなかったので、ニューヨークでお金を貸してくれば言う必要がなかった。市場がなければ、それも高橋は清が自伝に適当に書いてしまったために、ニューヨークでお金を貸してくれば言う必要がない。すなわち、四方八方頼んでくれとも、お金が集まることがなかったのです。だから、伝は四方八方頼んでくれとも、お金が集まらないのです。だから、融資市場はロンドンにしかないのです。ですから、
日露戦争とロンドン金融市場

最初からロンドンに行ってファイナンスする状況は、ロンドンに行ったら、やっぱり貸してくれないのです。物の本によれば、日英同盟があるのでは、英国がファイナンスで助けてくれるだろう。かつて目的で書いている本もあるのです。ですが、これも間違って、英国は、ちょうどポーア戦争を戦っている中で、余分な外貨がないという判断をイギリス政府は持っていた。当時の業者、ペアリング・ブラザーズなどですけれども、こういうところで「特別な援助をくれるか。日本にファイナンスするのに、何か保証をつく」って、何か一億円のうちの五〇〇〇万円だけは、いかがか。「九〇四年二月から始まるのです。その前年の一九〇一年二月の段階で、イギリス政府が資金を援助してくれないということがわかってしまいます。こうか、当方に暮れているところに、今までの常識で何とかなる。
はそうではなくて実に巧妙な仕掛けがあります。日露戦争の陸上戦の初戦は鴨緑江（ヤールー川）、今の北朝鮮と中国の間を結んでいる橋ですが、この戦いがありまして、これがロシア陸軍と日本陸軍が初めて本格的に交える戦闘なのでです。

鴨緑江の戦いが四月三〇日から始まって五月三日に終わるのです。そこで陸上戦で勝ったということです。

完全に先進国の軍隊と変わらなかったということ、鴨緑江の戦いが四月三〇日から始まって五月三日に終わるのです。そこで陸上戦で勝ったということです。

完璧に先進国の軍隊と変わらなかったということです。
日露戦争とロンドン金融市場

日露戦争は、日露両国間の紛争が拡大し、日本政府が国際的に信頼される信用力に損を受ける可能性を示唆しました。この時点で、日本は国際的に認識される金融市場に参加するためのステップを踏み出していましたが、日露戦争の影響でその進行は一時的に阻まれました。

ロンドン金融市場は、世界中の投資家たちにとって重要な場であり、日本政府はこの市場に参加することで、国際社会における認知度を高めることができます。しかし、日露戦争の影響でこの参加は遅れました。
証券レビュー 第54巻第３号

さっき言いました鴨緑江での戦いを映画にしたものです。NHKの「映像の世紀」という番組があったのですが、その中に日露戦争が登場してきました。この映画は結構な人気があったそうですね。したがって、ユダヤ人が金を出してくれたわけではなくて、今みたい現代的な金融市場の状況ではありませんが、エンジニアが金を出してくれたわけですね。エンジニアが金を出してくれたからこそ、この映画は人気があったということですね。もっと詳しく言いますと、英国でブレイブリーで発行された債券をクーヌローブ商会がセカンダリーで丸ごとボンと買って、それに為替約款をつけてドル建てて直し、アメリカで販売した。専門的に言うと、そういった話です。アメリカ人は飽きっぽいで、そこで、ちょっと儲かったらすぐ売って、売った分は直にロンドンに戻っていった。

私がこの本を書いたのはいろんな状況に助けられていっております。二〇〇五年というのが、日露戦争が終わってちょうど二〇〇五年に当たっていたのにおぼえています。 Romaniaで、二〇〇五年というので、日露戦争が終わってちょうど二〇〇五年に当たっていたのにおぼえています。

（本日の話の進め方）

今、1の執筆の動機を話しました（文末添付資料2ページの目次を参照）。2は国債の歴史です。新潮選書は、五〇〇ページを超えると、物理的にばらばらになってしまうそうですね。私の本は五百ページあったのですが、カットしてくれとい
日露戦争とロンドン金融市場

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二

○世紀初頭のロンドン市場を見て、その後、4の二
資金の話というのは驚くほどないのですね。おそらく（日本の軍事関係）の一本を読まれた方はわかります。軍資金とか補給の話は余り出てきません。そのあぐくが第二次世界大戦に結びついていく。御存じの方がいらっしゃるかもしれません。軍部と軍属を合わせて二三十万人が亡んじゃわれたけれども、このうちの四〇万人が餓死了ののですね。補給ができなかったということです。こういう過去を日本は持っています。もっとも、ほかの国も大なり小なり餓死者はいっぱい出しています。イタリア軍なんかかも補給がひどい出しておりまして、イタリア軍なんかかも補給がひどい出しているので、餓死者をいっぱい出しています。イギリスの軍もアメリカ軍は、補給に対してかなりシリアスに物を考えていてということです。歴史はまだ浅いです。

（戦争経済学）

それから、（外国には）戦争経済学というのがあります。ポール・ポーストン『戦争の経済学』という本を出しているのです。日本は戦争をしない国ですから、これは要らないのかかもしれない。アメリカだと大体六〇大学に講座を持っていないということで、戦争と経済学を結びつけて考えると発想が日本には余りないということになるので、はなかかと思います。

（イタリアの都市国家）

国債の話になります（資料4ページ）。私はもう一冊、『金融の世界史』という本を書いています。これは日露戦争の本を書いた後で、国債の話とかわからんところがいっぱいあるので、通史
日露戦争とロンドン金融市場

日本の金を借金したが、国債もし発行するのでProgressive
を書籍化したものです。今、中国語版が出る
ところです。

国債がどこから始まったかというのは難しいので
ですが、昔から、税収があればその分使ってしま
うというのが一般的です。戦争になるとき、特別な
金がないので、その都度お金を徴収しなくては
いけないというのが昔からの事情です。それがや
がって国債に変わっていく。イタリアの都市国家で
ペネチアなんかは、戦争があったら国債を発行し
て、その国債にはちゃんと目的税がついていて、
それを返還しようとすると、何かしら明確な状態で出
していった。ペネチアの財政はすごく信頼が高かっ
たので、金利が低い時代が結構続いたというふう
に出てくると思います。

ただ、ペネチア以外の（他の王国の）王様も
（1888年、英国名誉革命）

イギリスでもこういう状態が続いていたのです
が、英国の名誉革命の中で、王様は勝手に借金す
るのをやめてもらおうということでみんなが集
まった。名誉革命というのはそういう革命なので
すが、王様は自分でファイナンスしないように、
証券レビュー 第54巻第3号

その代わり、イギリスがファイナンスしたものに、ついては議会が面倒を見ますということになる。

これが今で言う国債の始まりということになります。

王権が死んで、遺産相続で相続拒否をとられ

ただちに、出した国債が全部返ってこなくなっ

たりしていたのです。

国の主権が王権から議会に移ることがによって永続性が出てきた。誰かが死

のうが何しようが、イギリス議会が面倒を見ます。

一方で、フランスはそういうふうに動か

なかった。ルイ四世の時代ですが、借金ばかり

で積み重なって、デフォルトを繰り返していたと

いうのが実情です。

一六八八年は英国名約革命ですが、六年後の一

六九四年にバンク・オブ・イングランドがつくら

たたかってつくられた。その後、一七二〇年

に、有名な南海パブル事件の会社ができていま

うのは、金融史では結構いろんな話が話ましていて

という歴史がやりましたパブルですけれども、これ

オン（主権）が王から議会へ移ったということ

でです。一方で、フランスはそういうふうに動か

がいっぱい出てきて資金調達したので、パブルに

という男がやりましたパブルですけれども、これ

も同じ時期にあった。一七〇年におこった南海

パブル事件というのは、最後にいかがんな会社

がいっぱい出てきて資金調達したのかという話で

その中で泡沬会社

がいっぱい出てきて資金調達するなという法律をつくっ

たたかって資金調達するなという法律をつくっ

たたかって資金調達するなという法律をつくっ

たたかって資金調達するなという法律をつくっ

たたかって資金調達するなという法律をつくっ
日露戦争とロンドン金融市場

日露戦争とロンドン金融市場

どうということかというと、これはちょっと掘り下げないといけないのでですが、そもそも株式会社の有限責任ではなかったのです。無限責任だっ
た。東京電力の事故を考え起こしていただけば
わかると思いますが、無限責任ですと、株式の貸
償とか、株主が全部責任を負うことになってしまう。
これはと株式取引所で株の売買をしようと
思っても、無限責任ですから、この人は株主に
なって弁償する能力があるのかなというのがとて
ない。この泡沫会社停止法というのは、有限会社の会
社をつくったのは議会の承認が必要ですよという法
律になった。議会の承認をもらおうのは物すごく手
間がかかりという中で、イギリスで有限会社の

株式会社がつくられなくなってしまったという事
情があります。オランダ東インド会社は有限責任
だったのでは、アムステルダムの取引所は活発に売
買された。ロンドンの株式市場はなかなか発達し
なかったという事情があります。ちょっと話が流れてしまいましたが、どうなっ
たかというと、泡沫会社停止法ができおかけ
で、イギリスでは会社の資金調達が減った。個人
のお金は国債に移っていいく。国債市場が発達する
後半にイギリスの国債市場は大きく発展していき
ます。一七四九年ですが、ブラムという蔵相がいまし
て、彼がソブリン（コンソール）債を出すのです。

それまでの国債は今みたいに、何年発行、何回
債、利回り幾らとぼらぼらだったのです。ブラ
ムが統一して、全ての国債を永久債にしてしま
います。ですから、「売買の時に」回号とか言われ
な
日露戦争とロンドン金融市場

では、イギリス政府も妨害しなかった。そのお金で砲弾を買って、イギリス兵を殺していたという物すごい矛盾がある。ナポレオンは資金がなく、最後にアメリカに売った。お隣でアメリカが北米の中央部を手に入れたのですね。それで西海岸と結合していくという話になっています。

国債は常に戦争をつくっていき、南北戦争のときにも国債を発行します。それでもウォールストリートでも取り引きするもの（証券）は余りなかったのですから、戦争のための国債を売却することによって、証券市場が活気づくということになってしまいます。ちょうどこの南北戦争のとき、二つの新しい技術が出てきます。一つが鉄道、もう一つが電信、いわゆる電報、モールス信号です。

戦争のための国債発行が証券市場を育てた

在日係統に、戦争は常に戦争とつくっていきます。南北戦争のときにも国債を発行します。それでもウォールストリートでも取り引きするもの（証券）は余りなかったのですから、戦争のための国債を売却することによって、証券市場が活気づくということになってしまいます。ちょうどこの南北戦争のとき、二つの新しい技術が出てきます。一つが鉄道、もう一つが電信、いわゆる電報、モールス信号です。

戦争が常に戦争とつくっていきます。南北戦争のときにも国債を発行します。それでもウォールストリートでも取り引きするもの（証券）は余りなかったのですから、戦争のための国債を売却することによって、証券市場が活気づくということになってしまいます。ちょうどこの南北戦争のとき、二つの新しい技術が出てきます。一つが鉄道、もう一つが電信、いわゆる電報、モールス信号です。
由公債という戦費の債券を買っている。この一回の前、「狂騒の二〇年代」と言わざるを得ず、このときの株式市場は支えることになっていく。戦争と債券（国債、それから証券市場）は、実は切っても切れない仲にあるということことで、私の本の副題も「パルプと戦争と株式市場」をしているのは、ちゃんと理由があるという話です。

三、鉄道という技術革新

先ほど南北戦争のときに、電信と鉄道が出たと聞で、ドイツ帝国（建国）を宣言した。ドイツ帝国の社会は、実は切っても切れない仲にあるということことで、私の本の副題も「パルプと戦争と株式市場」をしているのは、ちゃんと理由があるという話です。

フランスとドイツの仲は、仕返し、仕返しの連続で物すごいのです。第一次世界大戦のベルサイユ条約では、この技術（の影響）は非常に大きいうまです。プロシアがドイツ系の国家をまとめて、こ
日露戦争とロンドン金融市場

では、中国と日本を、このときのフランスとドイツに例える記事が年末にかかっていたが、こういう遺恨試合、感情のぶつけ合いみたいな形になっていた。普仏戦争のとき、これは「坂の上の雲」と読んでいるとわかると思うのですが、日本は児玉源太郎たちが中心になって、ドイツからメッケル少佐を呼んで参謀本部をつくります。（当時）参謀本部を持っていたのはドイツだけです。イギリス本部を持っていったのはドイツだけです。イギリスもフランスも、参謀本部は普仏戦争まで持ってなかった。なぜ参謀本部ができたか。これは国の中心の一か所で作戦を考え、どこにどの兵隊を配したか、資源配分をどうするか、集中して決めるかということです。これが電報と鉄道があるからでしょ、そうするとすぐに敵をつかないということです。中央制御が効くようになっ

司令官に任せるという方法しかなかったのです。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向けて六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていました。フランスに向かって六本の鉄道を敷いていま
日露戦争とロンドン金融市場

の雲の中では、二〇三高地を落とさない乃木に対して現地軍に問題意識が出て、児玉源太郎が乃木のところに向かうシーンがありますが、そのときに鉄道が出てきます。ロシアの鉄道だという設定になっているのです。実際にはロシア製の機関車が一台も捕獲できなかった。要するに、機関車がなければ一番できないのです。二〇ミリの線路を走れないのです。日本はこのときの線路の幅をを変えた部分に従って進軍できるという状況になった。さっき言ったメッケルを呼んだ облаがあったのです。日清戦争が終わった時点で鉄道大隊を二個ほど今の野につくったのです。これが後で鉄道連隊になって習志野に移転することになった。例えば、奉天会戦。奉天ヘラっと入った

ついてです。実は馬車軌道というのがありましたから進んで、線路の幅を変えているという話です。ついでですが、実は馬車軌道というのができ、日露線に線路ができました。この銀座なんかにあった馬車で引く鉄道のゲージが大きまが三七二ミリだった。標準軌ではなかったのです。これは東京中に線路ができました。ちょうど日露戦争のころに馬を当てる電車になっていくのです。京のときの幅が三七二ミリだった。京成電車、京王電鉄、京浜急行もそうですが、みんな最初は馬車軌です。なぜかというと、東京まで線路を敷い

都内に入るとときに、鉄道馬車を当時の電車と同じくつけようと思っていったので、線路の幅を同じにしたのです。ところが、地下鉄ができても、今度地下鉄とつながろうではないかということに、地下鉄とつながろうではないかということに、地下
証券レビュー 第54巻第3号

四、二〇世紀初頭のロンドン金融市場

さて、二〇世紀初頭のロンドン金融市場（資料6ページ）は、先ほど説明しましたが、タイムズの証券欄、これはちょっと見にくいですが、国名、価格、クーポンレートが書いてあります。わかりやすいように書き写したのが左側の表になります。

これを見ていたら、イギリスのコンソール債、先ほど言いましたが、永久債です。本にし、このコインボンニ、五％です。結局、これはイギリスが保証していますが、ブリティッシュ・シャー・コモンウェルスといいまして、当時の英国

鉄道（都営浅草線）は標準軌でやるということになったので京成電車は改軌をやった。馬車軌から標準軌に全部切り替えたのです。それで今は京浜急行と京成はつながっているということです。

ところが、京王電鉄だけは、都営新宿線（を作り）乗る。すまされもで埼玉線子王八部内（一部）の鉄道、がすましても証がスリギは近、とあ。すまいてっ走にだまいのがういとリミトジエ。すで五・サンポークがれこ、もた二六七の道電岐三（に県重三、︵はで種わ変しに本一。すで債久永がたしま言ど先債。がたこ。で債久きの大は題問路線けれそ。が。すで類部の識知豆はれこ。で差の軌準と軌馬証券レビュー 第54巻第3号なに表の側がのたし写き書にうよいすやりかげなつがすでのたえ替り切部に軌準標。すまいてっ走もで今のが車列いながら車。たっやを軌改は車電成京でのたっなつ。を変え種では、（三重県に）三岐鉄道の七六二ミリというのがいまだに走っています。あと、近鉄の一部（内部・八王子線）でもあります。乗り換えも本来、はるかに遠いところ、でも、あまり乗らぬ人も多い。
日露戦争とロンドン金融市場

『脂肪の塊』これは（彼）出世作になるのですが、こ

の植民地です。これがクーボン三％、フランスと

ドイツも三％、ロシア、スペイン、日本が四％

クーボンです。イタリア、アルゼンチン、ブラジ

ルは同じように五％のクーボンレートだったとい

うことです。これは戦争が始まる直前の、ロンド

ンは大晦日もやっていますので、一二三一日の

値段です。これをみますと、日本の債券はクーボ

ン四％もかかわらず、実は利回りは五％まで売

れましたということがわかると思います。

アメリカの鉄道証券というれと同じぐらいの大

きな欄があって、取り引きされていました。

ロンドンがいかに国際市場だったか。先ほど言

いました普仏戦争のさなかに、プロシア軍がフラ

ンスの領内に入っています。そのときに書かれた

小説があります。モーバッサンが書いた『脂肪の

軍アシロップ、中間旅士が多かった。

まして、このとき、脂肪の塊を Wander organization の、「脂肪の塊」は、美しい

小説です。モーバッサンのこの小説の中でも、資産

分配の話が普仏戦争の様子ということで出てきま

す。
証券レビュー 第54巻第3号

五、日露戦争と資金調達

起源

よいよ日露戦争に入ります（資料7ページ）。

鉄道の戦争と言いましたけれども、ロシアは一八九一年にシベリア鉄道をつくろうとしています。ハバロフスクがありますが、もともとのシベリア鉄道というのは、清国の国境に触れないで、まずウラジオストックから垂直にウスリ川沿いに上がって、それからアムール川沿いにヨーロッパに向け線路をつくっていく。一八九一年にウラジオストックで着工するのですから、このときに足を延ばして日本に来たのが、当時の皇太子、ニコラーア二世です。彼が大津で、津田という巡査に出頭を切らされてしまうという大津事件が起こりますが、これが一八九一年の話です。
日露戦争とロンドン金融市場

日露戦争が一九四四年です。この後、日本が遼東半島を占領しますが、三国干渉で清国に返すことを約束したため、ロシアは、ハルピンを経て、直線の東清鉄道の敷設権を清国から得てしまい、これがロシアで、俺のお蔭で元へ戻せたのだから、俺に貸せということでは、まず、ウラジオストックからハルピンを経て、直線の東清鉄道の敷設権を清国から得てしまう。最初、アムール川沿いにハロフスくに向かうところはすごい難工事で、とてもじゃないけど一〇年やそこらでできないなどと思われていたので、ショートカットする線ができなかったのが一九六年になります。

一九八八年、司祭が殺されたからとか、何だかんだいろんな理由をつけてどんどん進出していこうのですが、後に南満州鉄道（満鉄）になる綾の路線の敷設権を得ます。

一九〇〇年に義和団事件が起こりますが、このときにロシアは軍を鉄道沿いに展開した。（他の

列強はみんな兵を引いたのですが、ロシアだけ引かれないという状態が出てくるわけです。これが

日露戦争の起源だと言われています。日本から見ていれば、確かに何しているのだと思います。ま

ならびに、鉄道を清国の中に敷いて、縦に敷いて、不凍港であろう旅順を得てしまったという状況で

不凍港である旅順を得てしまったという状況で、不凍港で軍を進めるということです。伊ギリ

不凍のだということです。義和団事件は終わったのに対し、何で兵隊を引かなくてはならないのだということで、義和団事件が終わったのに、何で兵隊を引かなくてはならないのだということです。義和団事件が終わ

ギリスが反応したわけです。ギリスは、当時、ポーラ戦争で兵力をとられていたから、東のギリ

向けないのだということです。日本だけではなくて、ギリスが反応したわけです。ギリスは、当時、ポーラ戦争で兵力をとられていたから、東のギリスが反応したわけです。ギリスは、当時、ポーラ戦争で兵力をと

は、東アジアをめぐる戦争で兵力をとられていたから、東のギリスが反応したわけです。ギリスは、当時、ポーラ戦争で兵力をとられていたから、東のギリスが反応したわけです。ギリスは、当時、ポーラ戦争で兵力をとられていたから、東のギリ

し、満州はあんなの好きにしていから、韩国には手を出すなどということでも、一直是交渉をやっていくの

23
開ずを左軍シ、たっ勝陽、遼れの。

まれが戦こすまてっ沿線鉄は形うい向に旅し、陸付は、がいただいてロ。

軍す乃のきてっペ8ま﹂開的さ代の。

くいし進てに陽遼ナタ︶

展的理︵

の道がまり図、たで証券レビュー 第54巻第3号

山でれ。し上すまっせてめがロ。

す遮を道の連らかすまてっ用はの。

旅天が道は軍二第奥いさ。

いさのたっっ︵

︶

︶

︵

がたあ太寿。

垂れ変の読、伝続らす戦にんシ実、とる。

とる仁。

皮に陸南鴨、陸平軍一第った。
日露戦争とロンドン金融市場

予算と財源

予算についてお話しします（資料9ページ）。

○○万円、日露戦争は四億円○○○○万円だろうという想定で、これは帝国議会で出された予算です。 ○四年二月というのは、開戦時の第二〇回の

機関車が届いたのは戦争が終わった後だっ
だ。機関車が届いたのは戦争が終わった後だっ
た。清国の鉄道は標準軌だったのので、今度は一旦
狭軌にした線路をもう一回標準軌に改軌した。ロ
シアの広いから日本の狭いにした、もう一回
標準軌に戻るという作業をやるのですね。すると
が、鉄道が起点やということがわかります。すこ
くわかりやすいのでではないかと思います。これは
全部線路の幅を変えながら戦っていったというこ
とです。}

「坂の上の雲」は七巻ありますから、陸戦のところ
をずっと読んでいると、地理的にどうなっていた
かというのは、なかなかわかりにくいと思うので
すが、鉄道が起点だということがわかります。すこ
くわかりやすいのでではないかと思います。これは
全部線路の幅を変えながら戦っていったというこ
とです。
日露戦争とロンドン金融市場

やっていくに従って調達金利が下がっていたとい
うのが実情です。

下は内国債が出ています。見ていたが、
四年三月の内国債の調達金利は六・八三%です。
つまり、海外より国内のほうが低かった。ところ
が、途中で外内が逆転してしまうのです。日本
が、一部はやっていったのですか。もちろん懸きま
が、一つは「大国ロシア、一〇倍の国力」と
言っていますが、実はそうではなくて、（GDP）
で三倍だっただけです。借金大国ロシアと言われて
いまして、シベリア鉄道自体がフランスの借款で
上がっています。このことはアピトレーション
上がりませんか。このせいでドイツから借り
上がってしまうので、国内債の調達金利回りが外より
上がってしまうのです。そのせいでドイツから借り
すまない逆転現象が起きている。日本国内で
お金借りると高くなる逆転現象が起きている。

もう一つは「大国ロシア、一〇倍の国力」と
言っていますが、実はそうではなくて、（GDP）
で三倍だっただけです。借金大国ロシアと言われて
いまして、シベリア鉄道自体がフランスの借款で
上がっています。このことはアピトレーション
上がりませんか。このせいでドイツから借り
上がってしまうので、国内債の調達金利回りが外より
上がってしまうのです。そのせいでドイツから借り
すまない逆転現象が起きている。日本国内で
お金借りると高くなる逆転現象が起きている。

お金借りなくてはいけなくなった、露仏同盟若
いとして戦争が始まった。ロシアも

どうしようもない状態で戦争が始まった。ロシアは

これがチャートです（資料11ページ）。点線が

ロシア国債の利回りです。価格ではありませんなぜか

ならば、売られて上がると、買われると下がるという

ばれると考えます。
証券レビュー 第54巻第3号

グラフにあります。戦争が始まったのがお四月二日です。始まるそ」というときに、どちらも周りがボギーと上がってきます。「す」、「戦争」で、ロンドンで売られたわけです。ところが、ロシアは売られた後、下がっていいくのです。日本シアルんでは金利が上がっていいく。つまり、債券が売らされていくという状態になります。

高橋は満がロンドンに行ったのはまさにこのところです。彼がアメリカに着いたとき、イギリスに着きで、彼がアメリカに着いたとき、イギリスに着きで、彼がアメリカに着いたとき、イギリスに着いたときは、ブロードの真っ中、彼はファイナンスしなくてはいけない。こういう状態に入ったということです。

一番利回りが高かったのは二〇〇四年四月五日、六・四三％です。何が起点になったかというと、マカロフという、「ロシア海軍の至宝」とまで呼ばれて、本も書いていますし、世界で初めて実戦で魚雷を発射した人です。死んでしまったの戦で魚雷を発射した人ですが、死んでしまったので、私の中では、このときアメリカに派遣されていた金子堅太郎が非常に紳士的な演説をしました。そのとおり、敵将が死んだことをお悔みを言おうのですね。

それがアメリカで非常に受けたという事実がある。日本人は野蛮人だと思っていたら、そうである。マカロフが死んだことはかなり大きかったと思います。
日露戦争とロンドン金融市場

良くしていたというのはあったと思います。それ
は本に書いておきました。

そうした中でクーンローープ商会のシフは、ビジ
ネーションだと思って、じっと待っていました。今
と同じで目論見書（の分量）は結構あるのです。

「じゃ、買い行った。「売って」と渡すわけにいかない。
がめついたので有名なユダヤ人のクーンローープ商
会が買い合うくらいだから、イギリスから
国内でイシューできないから、イギリスから
にがめついたので有名なユダヤ人のクーンローープ商
会が買い合うくらいだから、これは儲かるに決まって
いるじゃないかということです。日本の公債が大
人が気になる。それで日本利回りは一気に下る
のがですが、遼陽会戦大勝利、黄海海戦大勝利、日
本は初戦、連戦連勝という事で（日本の公債が大
本の国債の募集をやってるという話で、これ
を書いていただければわかると思いますが、世界的
にがめついたので有名なユダヤ人のクーンローープ商
会が買い合うくらいだから、これは儲かるに決まって
いるじやないかというで（日本の公債が大
にがめついたので有名なユダヤ人のクーンローープ商
会が買い合うくらいだから、これは儲かるに決まって
いるじやないかということです。日本の公債が大
人が気になる。それで日本利回りは一気に下る
のがですが、遼陽会戦大勝利、黄海海戦大勝利、日
本は初戦、連戦連勝という事で（日本の公債が大
公債発行するのではないかということですが、この
で、金利的には圧迫された状態になっているので
公債発行するのではないかという噂が出ますので、
ここではハル事件が起こります。ちなみに発行を
書いているのは、戦争中に四回公債を発行してい
ますので、�、卯、己と書いてあります。これは御存じの
ハル事件は発行の直前です。これは御存じの

— 29 —
方もいらっしゃると思いますが、バルチック艦隊がドッサーバンクの沖でイギリスの漁船群に発砲したという事件です。これはもちろん一坂の上の雲にも書いてあるのですが、ハル事件ではありません。

この事件は、私は「当時のイギリスの新聞タイムズ」を全部読んでみましたが、「限りなきロシア」とか、五日間ぐらい第一面を占めてひどいシアーとか、五日間ぐらい第一面を占めてひどい書き方です。これでイギリスの世論が一気に盛り上がるのですね。実は石炭の供給とかイギリスの会社もやっていたのですから、この事件をきっかけに会社もやっていたのですから、この事件をきっかけに盛り上がるとします。ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、ということがあります。日本の公債を買ってもらいじゃなくて、ハル事件のせいでイギリスからいじめ倒され、"
日露戦争とロンドン金融市場

（株式市場）

これは東京株式取引所株です（資料12ページ）。

当時会社組織で、日経二二五はありませんから、

これが指標銘柄です。ヘッジするときはこれを空

売りする。これは取引量に応じて業績が変わりま

すので、活況になれば上がる株、取引所がだめに

なると下がるということで、みんなこれまで、

売るとやっていた。

これを見てみますと、国内の雰囲気は連戦

勝とうか何しよう、余り動いていないのが

だめかというと、この時の大戦で勝つというの

は、ロシア軍を包囲せん滅すするということです。

要するに、もう一回戦えない状態にできたどうか

が勝敗を決めるのです。毎回毎回、ロシアはス

ルッスルッと逃げていくわけで、そのたびに日本

は補給の経路が長くなる。戦費負担がかかりとい

う。
うことで、兜町で勝ったけど勝ち方が悪いということで買わなくなったのですね。日本にいたハル事件の効果もよくわからないで
すから、反応せずに、株価は年末に向けてぐるぐるずるずる下がっていく。
旅順陥落。さらに血の日曜日事件で反応しま
た。しかし奉天会戦でも、また反応しないので
す。日本海海戦の反応というのはご覚のとおり
で、（兜町は）戦争が終わったと思った。奉天で
勝った時点でパルチック艦隊は物すごい恐怖に
なっていましたから、これが来て、もしバル
チック艦隊が勝ったら、大陸にいる日本軍は戻っ
てみれば一発逆転のチャンスだったのです。ロシアに
してみれば完勝する必要はありません
から、何隻か残ってウラジオストックに入れば
よかったのですねが、完敗したということで、全て
の鬱屈が晴れたのですね。ロシアは制海権が完全
になくなってしまったのです。当時の「兜町盛衰
記」　という本がありますが、あの中に書いてある
のは、兜町は賠償金の話ばかりするようになっ
た。二〇億円ももらえないのではないかのか、一五億円
でないのか、同じ話で、講話会議が始まる
とき、どうももらえないのではないかということ
のどん下がってきたのです。最後にどうと賠
償金がもらえるなかったということがわかって大暴
落してしまったということです。
大暴落した後、新聞は発刊停止になってい
ます。それで新聞発刊停止。株式の大プライスも
つかないのですか、プライスがついて再開したと
日露戦争とロンドン金融市場

六、海外市場と戦後

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのかと思います。

クーロンプ商会のシフはよく気前よく引き受けたか、アメリカの市場はそのころどうなっていたのか思います。
これは物すごく豪華なパーティーよ、高橋は清と深
井英五を招いてニューヨークでやるのです。この
toki、よろしく頼むなと言っているのです。清
際には、たまた。外人の参加はできません。清
国と日本人だけが参加できるという条約になって
います。ということでアメリカを排除する。そこ
ろ、満鉄IPOをやってみたら、清国人は一人
もいなくて、日本人だけが参加したということ。
わいそうのは、こんな中でも外からお金を
集めなくてはいけない金融マンがいました。日本
内の証拠金を払って二〇円ですから、話にならない
のみながあおもみして、一〇七〇倍か何か、物すごい
倍率です。それが満鉄IPOです。実際には満鉄
にはキャッシュはなかったということです。五円
の証拠金を払って二〇円ですから、話にならない
のですね。借金しなくてはいけないというので動
いたのが、当時でできた日本の興業銀行のお仕事
だった。添田総裁が世界を回るわけですが、アメ
リカへ行ったが、当然だねもほろという状態で
す。ロスチャイルドは、交戦中の国にはお金は貸し
ません。ユダヤ系では米国グーンロープ商会の
シフとか（ドイツの）ウォーバーゲが積極的に日
露戦争の戰時国債の引き受けをやってくれたので
すが、（ロスチャイルドは）彼らのことをかね
ねたんでいまして、要するに、後から来た連中な
森本理事長
板谷先生、大変ありがとうございました。
それはまだ、まだ多くの時間をありがとうございますので、ここへ来られる方々、御質問をいただきたいと思います。
森本理事長

日露戦争とロンドン金融市場

日露戦争の状況を振り返りながら、今、中間層、大変興味深いお話。ありがとうございます。

日露戦争とロシアの関係に思いをはせることで、彼が言うように、市場が下がる過程でロスチャイルドの手が働き、市場が下がる過程でロスチャイルドが全部入っている。だから、ウィンザーがロスチャイルド手先がねたんでいたというレターが残っています。（ロスチャイルドの）陰謀論は、この点でも間違いないということだと思います。

これまで、日露戦争の話は一旦終わりです。ここの会場のほうから御意見、御質問をいただきたいと思います。

国とロシアと日本の関係に思いをはせるのです。何年か前に私が遼寧省に行ったり、向こうの官僚の方が「中国の東北と我々の地域は、あすにでも北京から独立できる」というふうに言ったのです。なぜかというと、穀物は自給で、教育レベル最も高くたったのです。エネルギーも自給できる、次世界大戦前は、工業生産が最も盛んな地域で、教育レベル最も高かった。ただ、ここが発展しあっているので、関係のない沿海州、上海のほうにお金流し込んで、向こうを先に発展させようとするとき、必ず隣接する地域が争う地として入っていくので、関係のない沿海州、上海のほうにお金流れ込んで、向こうを先に発展させよう。これから遼寧省を中心として、内陸部の方々。これからの遼寧省の平均年齢は中国の各省の中で最も若く、向かい発展の基軸を変えているんだ、という話がされた。

中国にしてもロシアにしても、資本主義的な政
証券レビュー 第54巻第3号

戦争をとっているが、実際にはまだ一九三〇年以前の体制の中にあって、どうも今後の体制が本当に持つだろうかということについて、私は非常に疑問を持っている。もちろん中国にしてもロシアにしても分解するようなことが出てくると、満蒙地域というのちは、もう一回非常に大な意味を持っているので、最近の状況の中で、この地域について何かお知りのことがあられたら、聞かせていただきたいためです。

板谷
での満蒙地域と限定するとき、特にアイデアはないですね。ただ、今中国との状況は、第一次世界大戦中の例を安倍首相がさえました所であり、イギリスが中国であり、フランスが日本であり、イギリスがアメリカに相当する。第一次世界大戦当時の件事を安倍首相がされましたたけれども、イギリスが中国であり、フランスが日本を持っていいく。そういった危機感があった中で戦争が勃発したという意味で、類似しているというのは、安倍さんが言ったのでは、ドイツとフランスは、戦争でも何でもなかったのですし、日本の大戦当時のドイツとフランスはだんだんで、やはり懸念されていました。このような状況はどこまで持つのかどうか。第一次世界大戦時のドイツとフランスはだんだんで、やはり懸念されていました。このような懸念を持っています。
森本理事長
お話を伺いますと、日露戦争のときは、戦争も市場原理が非常に貫徹しているというか、国際的に市場の信頼を得ないと勝てない、みたいな印象を受けるのですが、その後、第一次世界大戦、第二次世界大戦と比べますと、総力戦体制になると、むしろ市場原理が後退しているという理解でよろしいのでしょうか。

第一次世界大戦、そのイギリスが巻き込まれてしまいましたので、金融市場が崩壊してしまいます。取引所は全部閉鎖された状況になりましたが、戦後まで待たなくてはならないかという、一応の理解でよろしいでしょうか。

森本理事長
それは、ちょうど時間となりましたので、本日の「資本市場を考える会」は以上とさせていただきます。

板谷先生
大変ありがとうございました。（拍手）
板谷 敏彦 氏

略歴

1955年 兵庫県西宮市生まれ
1981年 関西学院大学経済学部卒業
1981年 石川島播磨重工業入社 横浜造船所にて1年間の現場実習
1984年 日興証券株式会社入社、外国株式部配属
1985年 日興ニューヨーク現地法人株式部
プログラマム・トレーディングに注力
1989年 『プログラマム・トレーディング入門』
ミラー・タバック著共同翻訳（日本経済新聞社）
1991年 日興証券株式部
1993年 日興証券エクィティ・トレーディング室（中央金法担当営業課長）
1997年 デリバティブ部兼自己トレーディング部副部長
1999年 クレディ・アグリコル証券マネジング・ダイレクター
2001年 ドレスナー・クラインオート・ワッサースタイン証券
マネジング・ダイレクター
2003年 みずほ証券株式部門営業統括
2006年 ルート・アセット・マネジメント設立
2012年 作家、ファンドは休止中、週刊『エコノミスト』書評委員
～現在

◆主な著書
・『プログラマム・トレーディング入門』（共同翻訳 日本経済新聞社）
・『日露戦争、資金調達の戦い』（新潮選書）
・『金融の世界史』（新潮選書）
日露戦争とロンドン金融市場

日露戦争資金調達関連読書ガイド

現在購入可能な書籍を中心に、

高橋是清関連
『高橋是清自伝 上下』（中公文庫）
『高橋是清：日本のケインズ-その生涯と思想』スメサースト、東洋経済新報社
『大恐慌を駆け抜けた男-高橋是清』松本崇、中央公論新社
『随想録』高橋是清（中公クラシックス）

日露戦争関連
『日露戦争史』横手慎二、中公新書
『日露戦争の世紀』山室信一、岩波新書
『日露戦争研究の新視点』鈴木俊夫他 成文社
『もうひとつの日露戦争』サルキノフ 朝日選書
『ベルツの日記 上下』エルウェン・ベルツ、岩波文庫

証券市場関連
『国債の歴史』富田俊基 東洋経済新報社
『モルガン家 上下』 ロン・チャーナウ 日経ビジネス文庫
『ウォーバーグーユダヤ財閥の興亡 上下』 ロン・チャーナウ 日本経済新聞社
『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト フォレスト出版

ロジスティクス関連
『増補 満鉄』原田勝正 日本経済評論社
『補給- 何が勝敗を決定するのか』マーチン・ファン・クレフェルト 中公文庫
『鉄道と戦争の世界史』クリスティアン・ウォルマー、中央公論新社

絶版ながらもし入手可能であれば
『回顧七〇年』深井英五 岩波出版